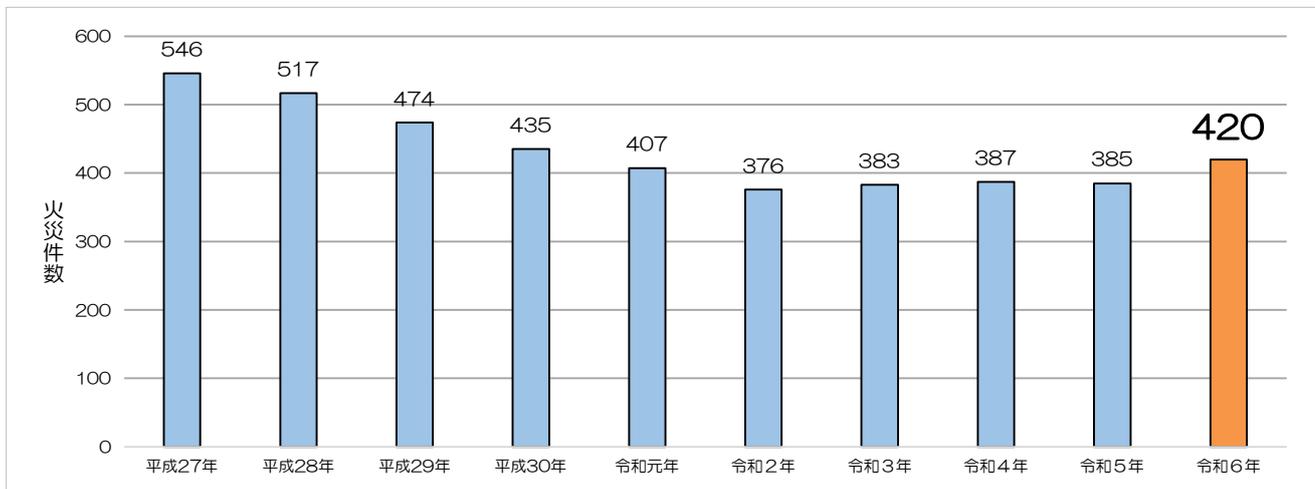


「火の用心だより」 第118号 (令和7年1月号)

発行：札幌市消防局予防部予防課

令和6年中の火災発生状況 (速報値)

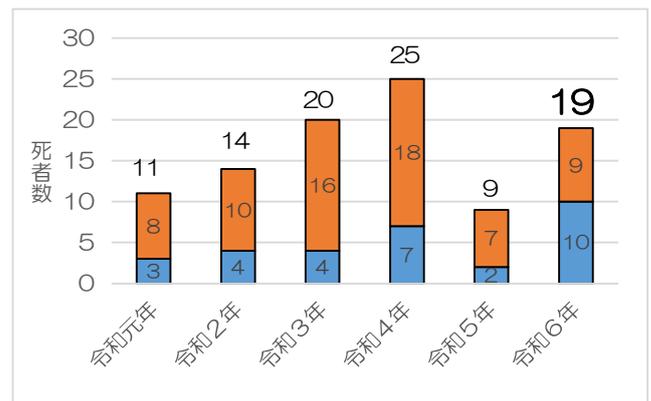
新年あけましておめでとうございます。いつも消防行政に御協力いただきありがとうございます。昨年の火災発生状況 (速報値) をお知らせします。札幌市内における令和6年の火災件数は420件で、前年と比べ35件の増加となりました。そのうち建物火災が307件 (前年比21件増)、車両火災が54件 (前年比9件増)、屋外物品等の火災が59件 (前年比5件増) となっています。



●死者数は前年比10人の増加

令和6年は火災による死者が 19人 で、前年と比べ10人の増加となりました。

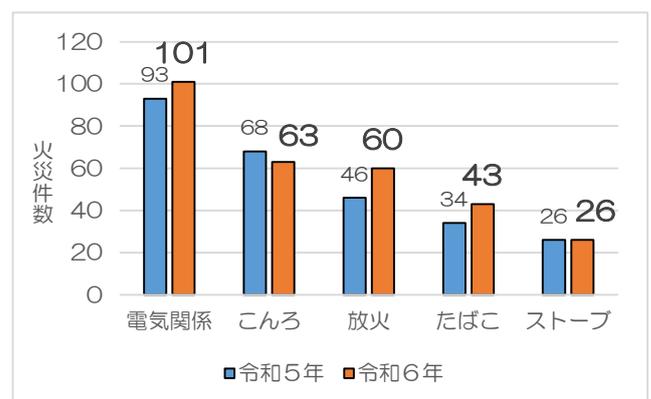
死者19人のうち高齢者 (65歳以上) の死者は9人で、火災の死者に占める高齢者の死者の割合 (約47%) は、例年 (過去5年平均約75%) より低くなっています。



●出火原因の1位は電気関係

主な出火原因の件数は、次のとおりです。

- 1位 電気関係 101件 (前年比8件増)
- 2位 こんろ 63件 (前年比5件減)
- 3位 放火 60件 (前年比14件増)
- 4位 たばこ 43件 (前年比9件増)
- 5位 ストープ 26件 (前年同数)



電気火災を防ぐために(充電式電池編)

令和6年中に札幌市内で発生した電気火災は101件で、過去20年間で最多となっており、近年増加傾向にあります。

特に、リチウムイオン電池からの火災が近年急増しています。

今月号は、「充電式電池・リチウム電池」についてお知らせします。

充電式電池・リチウム電池

近年火災原因として増加が著しいのが、モバイルバッテリーのように繰り返し使える充電式電池です。以下のような火災事例があります。

▶▶ 電池を捨てる際に、適切に処理せず発火

リチウム電池では、電池を処分する際に絶縁テープなどで絶縁処理をしないと、電池同士が接触により放電して発火する場合があります。



▶▶ 暖房機器で暖められ、内部に熱がこもり発火

充電式電池を暖房機器近くに置くなどして暖めると、内部に熱がこもり電池を損傷させ発火する場合があります。



▶▶ 水に落としたことによる発火

洗面所などで水に水没させた場合、内側に水が浸み込み、異常が生じ、通電時などに内部でショートして発火する場合があります。



▶▶ 落下による発火

落下などにより、大きな衝撃が加わると、変形や電池内部の損傷により、発火することがあります。



▶▶ 低温下で充電したために発火

低温下での電池の充電は、電池に損傷を与える恐れがあり、発火に至る可能性があります。



火災予防対策とまとめ

充電式電池は、説明書をしっかり確認し使用方法を守るとともに、電池をぶついたり、濡らすなどしてしまった時は、電池に異常がないかしっかり確認し、電池が膨らむなど少しでも異常があれば、使用をやめましょう。充電式電池は近年使用が増え、それに伴い火災件数も増えています。原因は様々で、使用方法の不備や改造、製品の不良などがあります。PSEマークが表示されているかなどを確認し、一定の安全が確保されているものを使用し、火災を起こさないようにしましょう。

出典：消防庁ホームページ(<https://www.fdma.go.jp/>)

「住宅における電気火災の原因と予防対策 リーフレット」

(消防庁：https://www.fdma.go.jp/publication/movie/juutaku_bouka/items/r06_denkikasai_leaflet.pdf)を加工して作成

総務省消防庁のホームページにて詳しく動画で解説しています！
URL：https://www.fdma.go.jp/publication/movie/juutaku_bouka/post-7.html

こちらをチェック



市民が主役の火災予防

- ① 火災予防行事・活動に参加しましょう
- ② 火災予防の知識・行動要領を身につけましょう
- ③ 消火器などの防災機器を備えましょう
- ④ 防災品を使用しましょう
- ⑤ 放火されない環境をつくりましょう
- ⑥ 火災から高齢の方などを守りましょう

発行：札幌市消防局予防部予防課

〒064-8586 札幌市中央区南4条西10丁目

☎011-215-2040

SAPPORO



さっぽろ市
02-N0624-300
R62-305